

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれています。本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含みません。
- 3 本資料には、物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含みません。

安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（物件事故除く）

平成 30 年 1 月～2 月

1 県内の発生状況（運転目的が業務中・出勤中・退社中のもの）

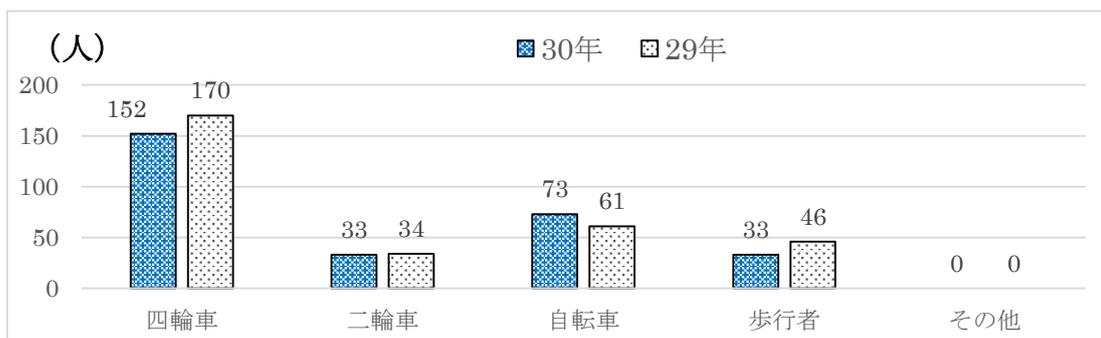
	2月中				累 計				
	30年	29年	増減数	増減率	30年	29年	増減数	増減率	
発 生 件 数	130	137	-7	-5.1	252	260	-8	-3.1	
昼	日の出1時間後	20	9	11	122.2	36	24	12	50.0
	そ の 他 昼	72	79	-7	-8.9	125	138	-13	-9.4
	日の入1時間前	4	6	-2	-33.3	8	12	-4	-33.3
	昼 計	96	94	2	2.1	169	174	-5	-2.9
夜	日の入1時間後	14	12	2	16.7	30	25	5	20.0
	そ の 他 夜	17	25	-8	-32.0	45	53	-8	-15.1
	日の出1時間前	3	6	-3	-50.0	8	8	0	0.0
	夜 計	34	43	-9	-20.9	83	86	-3	-3.5
死 者 数	0	0	0	0.0	1	0	1	100.0	
負 傷 者 数	157	163	-6	-3.7	290	311	-21	-6.8	
重傷者数	14	18	-4	-22.2	26	29	-3	-10.3	
軽傷者数	143	145	-2	-1.4	264	282	-18	-6.4	

○ 概略

平成 30 年 2 月中、安管事業所における死亡事故の発生はありませんでしたが、前年比+1 件となっており、厳しい情勢が続いていますので引き続き安全運転管理の徹底をお願いします。

- 平成 30 年 2 月末現在の累計発生件数は 252 件（前年比-8 件）、負傷者数は 290 人（同-21 人）と減少しました。

2 死傷者の状態別（平成 30 年 2 月末現在の累計）



- 死傷者の状態別では、四輪車乗車中が 152 人（52.2%、前年比-18 人）、歩行中の死傷者は 33 人（11.3%、同-13 人）と減少したのに対し、自転車乗車中は 73 人（25.1%、同+12 人）と増加しました。

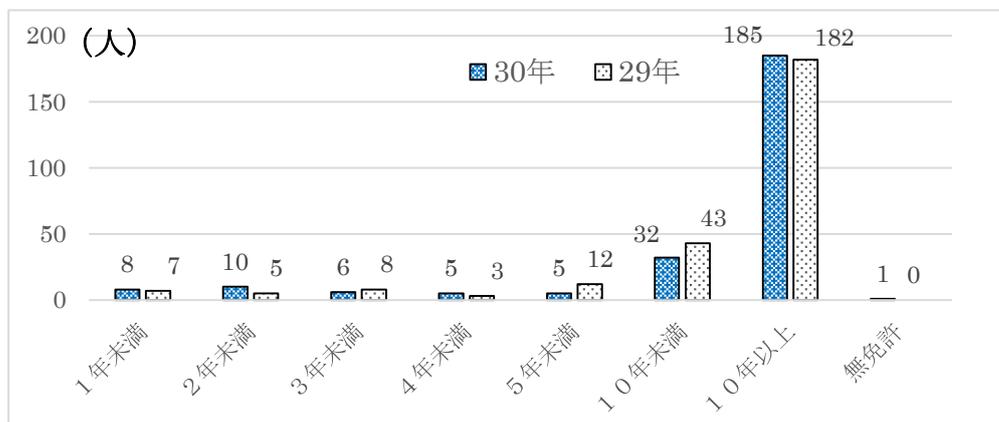
3 第1当事者の運行目的（平成30年2月末現在の累計）



- 第1当事者の運行目的は、業務中が128人（50.8%、前年比-8人）、通勤途中が124人（49.2%、同±0人）でした。通勤時間は業務時間より短いことと、電車通勤者も相当数いることを考えれば、通勤中の事故比率は高いと言えます。

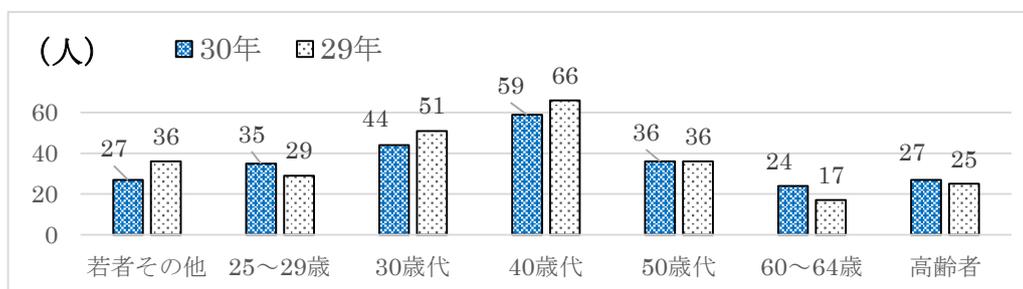
業務で車両を運転する従業員だけではなく、車両通勤者に対しても安全教育を実施するとともに、通勤経路の見直し（生活道路を避け、幹線道路主体の経路に改めるなど）や、危険個所をチェックするなどの対策を推進して下さい。

4 第1当事者の免許経験年数（平成30年2月末現在の累計）



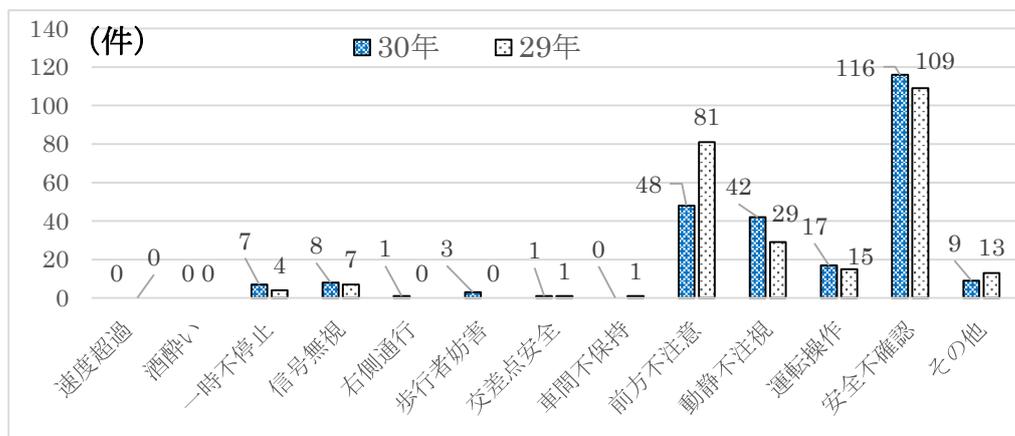
- 第1当事者の免許取得経過年数別では、経過年数10年以上の者が185人（73.4%、前年比+3人）と最も多く、次いで5年以上10年未満の者が32人（12.7%、同一11人）でした。運転経験の少ない従業員に対する安全教育だけではなく、ベテラン従業員に対してもきめ細かい安全教育が必要です。

5 第1当事者の年齢層（平成30年2月末現在の累計）



- 第1当事者の年齢層は、40歳代が最も多く59人（23.4%、前年比-7人）、次いで30歳代が44人（17.5%、同一-7人）でしたが、60歳以上が51人（20.2%、前年比+9人）と増加しています。

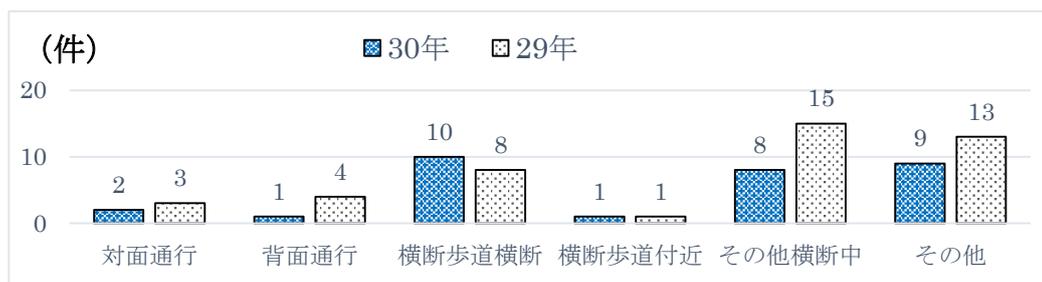
6 第1当事者の違反・原因別（平成30年2月末現在の累計）



- 事故原因は、前方不注意、動静不注視、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が多く、合計223件で事故原因の88.5%を占めています。

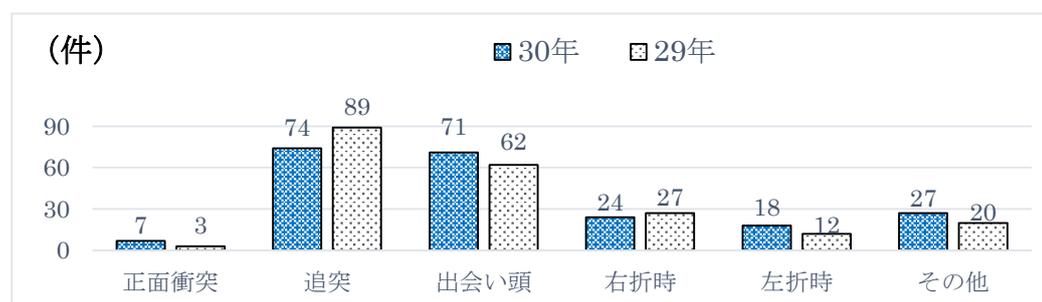
7 事故類型（平成30年2月末現在の累計）

(1) 人対車両



- 人対車両の事故は31件（前年比-13件）と減少しました。横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故は計19件（61.3%、同-5件）でした。人対車両の事故は、重傷事故に発展する可能性が高いので特に注意して下さい。

(2) 車両相互

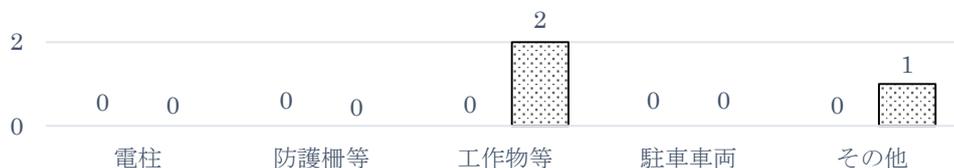


- 車両相互の事故類型で最も多いのは追突の74件（29.4%、前年比-15件）ですが、正面衝突が7件（2.8%、同+4件）と増加しています。正面衝突は他の事故類型に比べ、重大事故に発展する可能性が高いので、注意してください。

(3) 車両単独

(件)

■ 30年 □ 29年

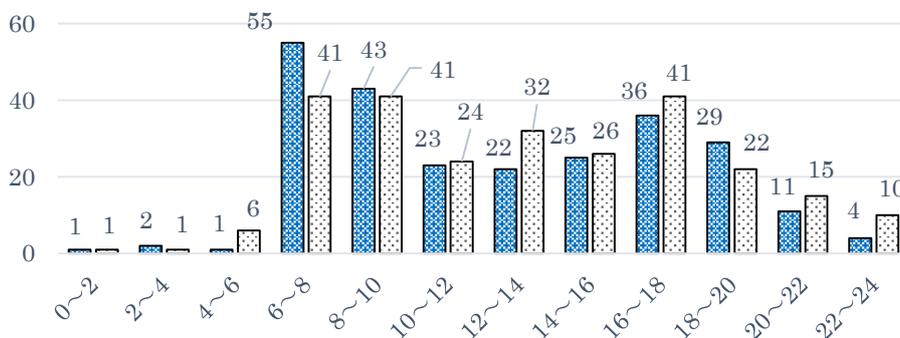


○ 2月末まで車両単独事故の発生はありませんでした。

8 時間帯別発生状況 (平成30年2月末現在の累計)

(件)

■ 30年 □ 29年

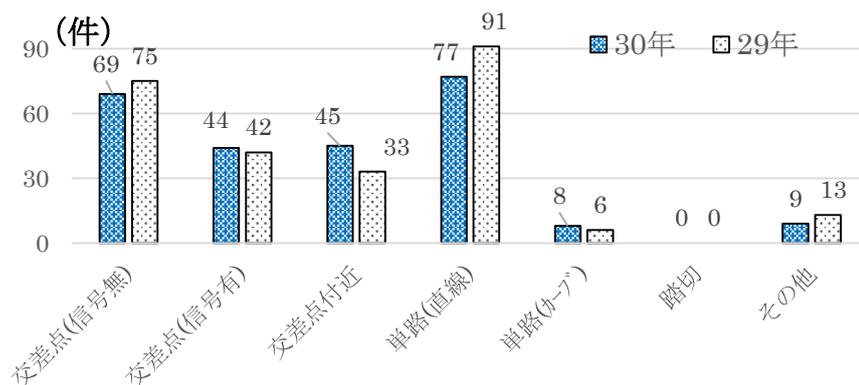


○ 時間帯別で最も多く発生したのは、6時から8時までの55件(21.8%、前年比+14件)でした。次いで多く発生したのは8時から10時までの43件(17.1%同+2件)でした。6時から10時までの時間帯に事故の3分の1以上が発生していますので、時間的な余裕を持った出勤や出発に心掛けてください。

9 道路形状別発生状況 (平成30年2月末現在の累計)

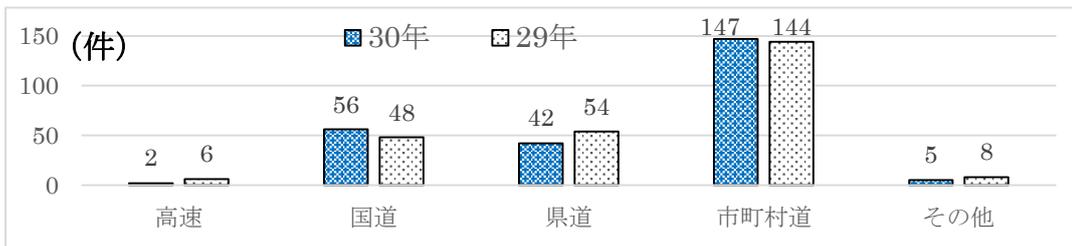
(件)

■ 30年 □ 29年



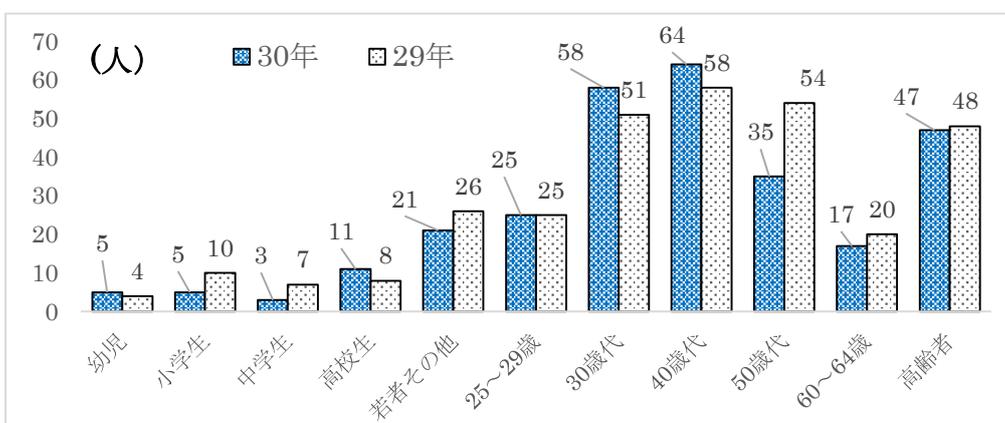
○ 道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて158件(62.7%、前年比+8件)と増加したのに対し、単路(直線)の事故は77件(30.6%、同-14件)と減少しました。

10 道路別発生状況（平成30年2月末現在の累計）



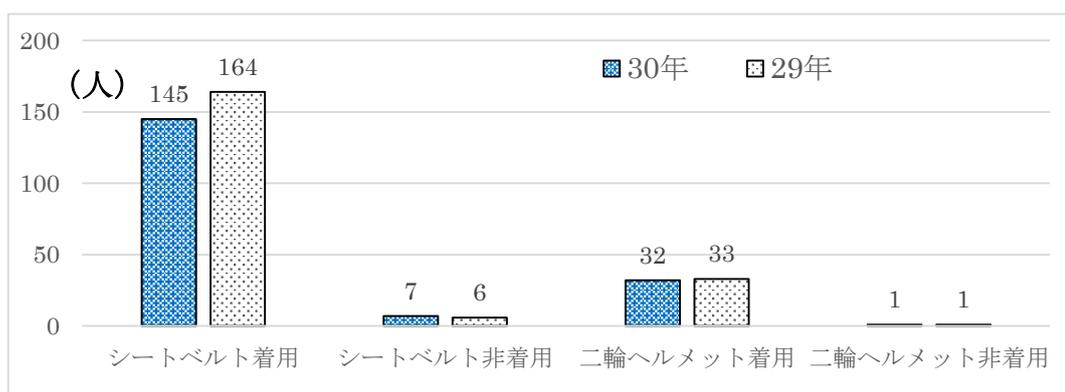
- 道路別では、市町村道が最も多く147件（58.3%、前年比+3件）、次いで国道が56件（22.2%、同+8件）、県道が42件（16.7%、同-12件）でした。

11 死傷者の年齢層別（平成30年2月末現在の累計）



- 死傷者の年齢層別で最も多かったのは、40歳代の64人（22.0%、前年比+6人）、次いで30歳代の58人（19.9%、同+7人）でした。高齢者は47人（16.2%、同-1人）と減少していますが、対高齢者の事故は、重大事故になる可能性が高いので、思いやりのある運転に心掛けてください。

12 シートベルト・ヘルメット着用状況（平成30年2月末現在の累計）



- 四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは145人（95.4%）、非着用は7人（4.6%）でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは、32人（97.0%）、非着用は1人（3.0%）でした。